



2021年2月12日

各位

会社名株式会社ヘリオス  
代表者名代表執行役社長 CEO 鍵本忠尚  
(コード番号：4593 東証マザーズ)  
問合せ先 執行役 CFO リチャード・キンケイド  
(TEL：03-5962-9440)

### 金融費用及び持分法による投資損失の計上 並びに特別損失の計上（個別決算）に関するお知らせ

当社は、2020年12月期（2020年1月1日から2020年12月31日）において、下記のとおり金融費用及び持分法による投資損失を計上しましたので、お知らせいたします。また、個別決算において特別損失を計上しましたので、合わせてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 金融費用の内容

2020年12月期第3四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年9月30日）において、金融費用1,079百万円を計上しておりましたが、当第4四半期連結会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日）にデリバティブ評価益<sup>※1</sup> 39百万円、社債利息<sup>※2</sup> 130百万円、支払利息9百万円、及び為替差損2百万円が発生したこと等により、2020年12月期において、1,182百万円を金融費用に計上いたしました。主な内訳は、デリバティブ評価損<sup>※1</sup> 637百万円、社債利息<sup>※2</sup> 502百万円、支払利息36百万円、及び為替差損5百万円の計上であります。

#### ※1 デリバティブ評価損益

デリバティブ評価損益とは、当社が2019年7月に海外投資家向けに発行しております転換社債型新株予約権付社債の新株予約権相当額を、2020年12月期末時点の公正価値で評価したことに伴い発生した評価損益です。2020年12月期第1四半期より導入している国際会計基準（IFRS）の規則に従い計上しております非現金損益項目です。

#### ※2 社債利息

2020年12月期に計上した社債利息502百万円のうち、461百万円は償却原価法により計上した費用です。※1と同様に2020年12月期第1四半期より導入している国際会計基準（IFRS）の規則に従い計上しております非現金支出費用です。

日本基準においては、転換社債の発行額を全額負債として計上し、発行手数料を費用として計上しておりましたが、IFRSにおいては、転換社債の発行額から発行手数料を控除した手取り収入額を、一定の基準に基づいて負債と資本とに区分して計上しま

す。その結果、転換社債の額面金額と負債として計上される金額とに差異が生じるため、その差額を社債利息として毎期償却（費用化）しております。

2. 持分法による投資損失の内容

2020年12月期第3四半期連結累計期間において、持分法による投資損失30百万円を計上していましたが、当第4四半期連結会計期間に15百万円の持分法による投資利益が発生したことにより、2020年12月期において、14百万円を持分法による投資損失に計上いたしました。当社の共同支配企業である株式会社サイレジェンにおいて、当期に損失が発生したことによるものです。

3. 特別損失の内容（個別決算）

2020年12月期の個別決算において、当社の連結子会社 Healios NA, Inc. について、会社維持費用が資本金を棄損させた結果、2020年12月末における Healios NA, Inc. の実質価額が著しく低下したことから、同社株式の簿価を実質価額（持分純資産）相当まで減損処理を行い、関係会社株式評価損191百万円を特別損失に計上いたしました。

なお、個別決算における上記の特別損失は連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

4. 業績に与える影響について

上記1、2に記載の金融費用及び持分法による投資損失の業績に与える影響につきましては、本日公表の「2020年12月期 決算短信〔IFRS〕（連結）」をご参照ください。

以 上